

子育てバリアフリー施策とまちづくり

主査 大森宣暁(東京大学准教授)

少子高齢社会に直面している我が国において、子育て中の親の社会参加を支援し、少子化に歯止めをかけるためにも、妊婦、乳幼児・児童を持つ子育て中の親および子供が、安全・安心・快適に外出活動に参加できる環境を整備するためのまちづくりが重要である。乳幼児・児童を持つ子育て中の親は、外出活動を含めた日常生活活動において、多様なバリアに直面している。交通システムおよび活動機会に関するバリア以外に、子供の活動に拘束される親の活動スケジュールの時間制約、外出に伴い派生する活動に関するバリア、子育て支援サービスの利用に関するバリア、外出および子育て支援サービスの情報入手に関するバリア等が存在する。本研究は、それらのバリアに着目し、バリアの具体的な内容を整理し、バリアを緩和し社会参加を支援するために有効な交通政策を含めた子育てバリアフリー施策を、まちづくりの視点から総合的に検討することを目的とする。

計5回の研究会を開催し、関連文献等の広範なレビューと並行して、独自のアンケート調査および分析を進め、結果の考察を深めた。まず、平成20年度の先行プロジェクトで検討を進めていた、子育て中の母親の外出活動を含めた日常生活活動における制約条件や行動実態把握のためのアンケート調査を実施した。分析の結果、居住地の違い（東京都心部、東京周辺部、北関東）による、子供連れでの外出用具の所有率や外出交通手段の違い、子育てバリアに対する意識の違い、子育て情報の入手と利用の違い、居住地選択における意識の違い等が明らかになった。また、ベビーカー利用者の視点から見た公共交通機関のバリアフリー、子育て経験と子連れ外出に対する意識、保育所送迎の実態と事業所内保育所のあり方等に関して議論を行った。さらに、徳島大学で開催された第39回土木計画学研究発表会において、「子育てバリアフリー」セッションを企画し、研究会メンバー以外の参加者を交えて、子育てバリアフリー施策とまちづくりに関して、多様な視点から議論を行った。